

令和5年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立入新井第一小学校

1 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

●正答率…前年度と比較し上昇↑・下降↓・同じ＝

他の項目…目標値と比較して±5ポイントを基準として≒で表す。

基準を上回るものを△、下回るものを▽で表す。

	領域	令和5年度	令和4年度	令和3年度
第4学年	言葉の特徴や使い方に関する事項	≒	△	△
	情報の扱いに関する事項	≒		
	我が国の言語文化に関する事項	≒		
	話すこと・聞くこと	≒		
	書くこと	≒		
	読むこと	≒		
第5学年	正答率	↑	△	△
	言葉の特徴や使い方に関する事項	≒		
	情報の扱いに関する事項	△		
	我が国の言語文化に関する事項	△		
	話すこと・聞くこと	≒		
	書くこと	△		
	読むこと	△		
第6学年	正答率	↑	↑	△
	言葉の特徴や使い方に関する事項	△	△	
	情報の扱いに関する事項	≒	△	
	我が国の言語文化に関する事項	△	△	
	話すこと・聞くこと	△	△	
	書くこと	△	△	
	読むこと	△	△	

(2) 分析（観点別）

① 定着が図られた領域

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を読む領域は全学年、 下学年の漢字を読む領域は 目標値、全国平均値より高 い、または同様の結果になっ ている。	・話の内容を聞き取る領域。 相手が伝えたいことの中 心をとらえることができる。 ・調べたことをもとに文章考 える領域は選択問題であ れば正答率が向上している。	・3学年とも平均値、目標値 共に上回っていた。

## ② 課題のある領域

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字を書く領域では、全学年正答率が下がる問題がある。</li> <li>言葉の学習の領域。修飾語、主語と述語、ローマ字、敬語といった問題は正答率が下がる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章を書く領域では、自分の考えを理由とともに書く問題で正答率が下がっている。記述問題は無回答の児童も一定数いる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記述問題を無回答の児童が減れば、さらに向上すると考えられる。</li> </ul>

## 2 昨年度の授業改善推進プランの検証

### (1) 昨年度の課題について

- 学力の高い児童をより伸ばしていくとともに、苦手だと感じている児童も楽しさを感じながら国語に取り組み、力を伸ばしていけるよう指導を続けていかなければならない。

### (2) 今年度の課題について

#### <1～3年生>

- ひらがな、および漢字の筆順の定着
- 絵本は絵だけを見て話の流れを見ていたり、挿絵の多い文庫本を選んで読んでいたり、活字離れが見られる。

#### <4年生>

##### ～区学力調査より～

- 「主語と述語との関係についてしている」の項目では、目標値を10ポイント下回っており、文章構成を読み取る力に課題が見られた。
- 「ローマ字で表記されたものを正しく読んでいる」の項目では、目標値を11.5ポイント下回っており、ローマ字の定着に課題が見られた。
- 「第3学年に配当されている漢字を正しく書いている」の項目では、目標値を5.8ポイント下回っており、第3学年までの漢字の定着に課題が見られた。

#### <5年生>

##### ～区学力調査より～

- 第4学年に配当されている漢字を書く問題では、目標値に対して▼17.1ポイントと習得していない結果が出た。漢字を書く力が弱い。
- 言葉の学習においては、連用修飾語の理解がされておらず、目標値より▼25.5ポイントであった。

※目標値である67.3ポイント達成していない児童が30%近くいる現状である。第4学年までの漢字や文法の習得が必要であると感じる。

#### <6年生>

##### ～区学力調査より～

- 基本どの項目も目標値を超えているが、説明文を読み取る力及び資料を読み取った後、文章を書く力が目標値ぎりぎりであった。
- ※情報と情報との関係を理解し、文章の情報を整理することや、資料から読み取ったことを書くことが課題と挙げられる。

目標値65.4ポイントに対し、目標値に達成していない児童が約15%いる。

### 3 授業改善のポイント（観点別）

#### (1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・書字のスピードがゆっくりなため、低学年のうちから50音表の視写や写文を継続的に行い、書くことに抵抗をなくせるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学年、高学年でグループやクラスでの話し合い活動がスムーズにできるよう、1対1での交流の場を意欲的に設けるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ、本の紹介、劇化、日記や手紙、インタビュー活動など言語活動を工夫することで、どの児童も楽しみながら取り組むことができるようにする。</li> </ul>

#### (2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・一行日記などを活用して短い文章から書き始め、文を書くことに対する苦手意識を少なくする。</li> <li>・小テストなどを定期的に実施して、知識の定着を図っていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達への伝え方を手本として見せたり、伝えるポイントを明確化したりして、苦手意識を少なくする。</li> <li>・対話の場面を多く設定し、様々な考えに触れながら自分の考えを表現できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来事や自分の気持ちを文章に表す機会や、日々の会話で問いかけを多くすることで気持ちを表出する場面を増やす。</li> <li>・児童が自分事として考えられるような言語活動を設定する。</li> </ul>

#### (3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文などの文章や言語文化を扱う授業において、慣用句を始めとし、ことわざや故事成語等を漢字辞典で調べる。意味や使い方が身に付くよう工夫し、生活の中で使えるようにする。</li> <li>・接続語、指示語、文末表現に注意させる。</li> <li>・作文指導において、短作文を書かせる活動を取り入れ、「書く活動」に慣れさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を明確にした話し合いの機会を増やし、相手の考えを聞いた上で、自分の考えを伝えたり、新たな提案をしたりする経験を積ませる。</li> <li>・授業の中で、考えや感想を書かせ、交流や紹介の場を設ける。</li> <li>・説明文の読み取りを通して、文章の構成を理解させる。</li> <li>・読書活動を習慣化させ、隙間時間帯で自然に読書することの環境づくりをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容を普段の生活の中に結び付けたり、他の学習で横断的に取り扱ったりすることで、生活の中で学んだことを生かすことの楽しさを感じさせる。</li> <li>・児童の興味・関心に応じて、主体的に学習に取り組むことができるように導入を工夫する。</li> </ul>